

「横浜市多文化共生まちづくり指針～創造的社会的実現に向けて～」の概要

○ 基本目標

「多文化共生による創造的社会的実現」

日本人と外国人が相互理解を深め、共感をもって協働で創造的な活動に取り組む環境が必要です。本市は各区局が連携し、こうした環境づくりのサポートに取り組んでいきます。

○ 施策の方向性

【方向性①】外国人が認められ活躍できる「機会を創り出す」

＜あるべき姿＞

- ・市内の様々な分野で、外国人が活躍し、貢献している。
- ・活躍する外国人を見た市民の間で外国人への肯定的な見方が広がっている。
- ・外国籍等の子ども達が目指したいと思うような大人が多くいる。

＜施策の展開例＞

- ・留学生受入れ環境の向上と外国人の就業・起業支援
- ・地域での外国人と一体となって取り組む催し等の実施
- ・母語や母国の文化を活かせる制度
- ・地域で活躍する外国人が注目される仕組みづくり
- ・差別のない社会・多様性を肯定する社会に向けた取組

【方向性②】誰もが活動・滞在しやすいよう「おもてなし力を高める」

＜あるべき姿＞

- ・大規模スポーツイベントの開催に向け、短期滞在の外国人が暮らしやすく活動しやすい環境づくりが進んでいる。また取組がレガシーとして、大会終了後も滞在者等の受け入れ施策に生かされている。
- ・短期滞在も含め外国人が緊急時に安心して支援を受けられる体制が整っている。
- ・外国人受け入れ施策の質を高める上で、外国人自身の視点が生かされている。

＜施策の展開例＞

- ・防災・医療など緊急時の外国人対応強化
- ・案内表示の多言語化推進と外国人向け広報の充実
- ・ICT等を活用した情報提供体制の充実
- ・公衆無線 LAN の環境充実
- ・通訳等ボランティア体制のさらなる充実
- ・外国人の目を見た地域の魅力の発見と発信

【方向性③】外国人が抱える多様な課題に寄り添う「つながりを広げる」

＜あるべき姿＞

- ・定住化が進むことにより生じる外国人とその家族の多様な課題に、様々な主体が連携・協働してきめ細かに対応している。
- ・外国籍や外国につながる児童・生徒とその保護者が十分な相談対応や教育支援を受け、こうした子どもたちが将来の横浜を担う人材として育まれている。
- ・地域で外国人が一体となって活動に参加し、地域でつながりが生まれている。

＜施策の展開例＞

- ・ライフステージにあわせた外国籍等の子どもとその親へのサポート
- ・外国人高齢者・障害者等に対する対応の検討
- ・地域コミュニティと外国人のつながり支援
- ・関係機関等とのさらなる連携促進
- ・外国人の実情の把握と研修の充実